東京学芸大学　令和７年度「若手教員等研究支援費（若手教員等支援枠）」研究成果報告書

研究課題	日本の小学校外国語教育における名詞の数え方に関する調査および授業実践	
氏名 志野　文乃	所属 人文・社会科学系	職名 特任講師

APRIN e-ラーニングプログラムの受講　☑←受講済の場合はチェックをすること

【研究成果の概要】　（文字の大きさ９ポイント・字数 800 字～1600 字程度）

本研究の目的は、小学校外国語（英語）教育で取り扱う食べ物の名詞の数え方に関し、教員志望の学生とともに理解を深め、実際の教室で不安や迷いなく指導を行うことができるよう支援を行い、これを日本の小学校外国語教育に還元することである。そのため、本研究では現行の検定教科書および共通教材をもとに資料を作成し、ままごとセットも使用しながら、教員志望の大学生を対象に、2025 年 11 月～2026 年 1 月に、食べ物の名詞の数え方に関する授業実践を行った。

本研究の結果、現行の検定教科書および共通教材に掲載されている食べ物の単語について、小学校段階で学ぶ範囲の言い回しでは、質問の仕方や答え方に工夫が必要であることが分かった。また、食べ物（野菜、果物、料理、デザート、飲み物等）をより詳しい表現を用いて数える場合、中学生以上で学ぶ言い回しも多く、小学校段階では学習しないが、児童から詳しく知りたいと質問等があった場合には、教師が答えられるよう準備をしておく必要があることも分かった。

本研究の授業実践で作成した資料では、現行の検定教科書および共通教材に掲載されている食べ物を一つ一つ取り扱い、小学校段階で学習する表現に当てはめながら、イラストも用い視覚的にも理解が深まるよう努めた。また、食べ物のままごとセットを使用することで、実物に近いものを用い、より理解が深まるよう授業実践に取り組んだ。

授業実践の結果、対象者たちは積極的に活動に取り組む様子が見られた。教員志望者向けの資料を使用したため中学生以上で学習する表現もあったが、一つ一つの食べ物について詳しく紹介するだけでなく、共通のルールや特別な言い回しをクイズ形式で取り上げることで、ルールを整理しながら興味を持って参加する様子も見られた。今後は、教員志望の大学生だけでなく、現職教員の方々にも実践内容について伝えることができればと考える。

そして、本研究の調査をもとに、より効果的な教育実践および教師教育に関する提案をし、小学校における外国語教育に貢献したいと考えるため、学会にて１本の研究発表を行い、１本の学術論文を投稿予定である。

【研究成果発表方法】

◎Shino, A. (2026). Effective approaches to teaching food countability in the EFL classroom. [Research-based paper]. Korea TESOL Journal. (執筆中)

◎志野文乃. (2026). 『食べ物の名詞【数え方まとめ】』. [授業実践資料]. 東京学芸大学 令和７年度「若手教員等研究支援費」に関する授業実践. (資料提出済)

※発表論文名（口頭発表を含む），氏名，学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入すること。

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに１部を提出すること。

なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。